

Robotics Report

新たな常識のはじまり

ロボティクス発展に欠かせない5G

nikko am
fund academy



去る2月26日から3月1日にかけて、スペイン・バルセロナで世界最大級の携帯通信関連見本市「モバイル・ワールド・コングレス2018」(以下、MWC)が開催されました。会場では、第5世代移動通信システム(以下、5G)の本格的な普及を控え、各企業からロボティクスに対しても新たな可能性が示されました。今回は見本市で見てきたことを中心に紹介します。



※賑わいを見せる会場

■ 産業用ロボットを汎用化する通信技術の革新

5Gやクラウドなど通信技術の発展は、産業用ロボットの未来にも新たな可能性を拓く。自社開発の協働ロボットを展示した日本の大手産業用ロボットメーカーの関係者はそう話してくれました。「超高速・大容量通信」、「超低遅延」、「多数同時接続」、「モビリティ」などの特徴を持つ5Gの商用化は、「ロボットのワイヤレス化や小型化、ポータビリティの向上により、汎用性が高い活用への道を拓くかもしれない」、と関係者は説明しています。この産業用ロボットメーカーは通信系の大規模イベントに初出展だったようで、「ロボティクスが専門技術間の壁を破壊しながら発展していく、という実感が日々強くなっている」とも語ってくれました。

ロボットの汎用性が高まれば、コストや技術管理の面でロボット導入が困難とされてきた中小企業向けに、BtoB(企業間取引)ビジネスを拓いていく足掛かりとなり、BtoC(企業対消費者間取引)ビジネスをも創出する原動力になりそうです。また、クラウド技術などの発展がロボット製品のハードウェア比率を下げることになり、メーカー側のコストダウンにつながっていくとみられます。

■ ロボットの動きや人間との連動性を高める5G

5Gは、ロボットの小型化・汎用化だけではなく、人間との相互性や連動性も高めると期待されます。会場では、NTTドコモが5Gを利用して人間の動きをリアルタイムで模倣する「書道ロボット」を展示し、超高速・大容量通信、超低遅延という特徴が、遠隔医療や災害用ロボットの実用化にも役立つ、と説明していました。また、サウジアラビアの通信大手サウジ・テレコムは、5Gと4Gに接続されたロボットアームをそれぞれ用意して双方の違いが確認できる展示をし、「スピーディーな動きだけでなく、動きの繊細さにも注目すべき」と強調していました。実際、5Gに接続したロボットアームの動きは滑らかで、『人間の手』にまた一歩近づいたという印象でした。



このほか、通信機能を装備した「コネクティッドカー」の展示も目立ち、5G登場や自動運転車時代の到来により、サービス拡大が期待されるMaaS(Mobility as a Service、自動運転技術などを活用したサービス)への進出を見

据え、世界の自動車や大手通信・IT系企業が熾烈な競争を繰り広げている、といった印象でした。

また、5Gの経済効果については、総務省が日本経済への効果を約52.6兆円(GDPの約1割)と試算しています。グローバルでは、2035年に最大12.3兆米ドル(約1,316兆円*、クアルコム調査)になるとの見方があります。今後、「5G×ロボティクス」によって、イノベーションがさらに加速すると期待されます。 *1米ドル=107円

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントがロボティクスに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。